

みなさま、新年明けましておめでとうございます。5月にWHOが新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言の終了を発表して以降、世界中で人々の動きが活発になり、日本にも多くの外国人が観光に来るようになりました。インバウンドにより日本経済も好転するかと思いきや、ガソリンをはじめ諸々の日常必需品の価格高騰により、国民生活は決して楽になったとは言い難い状況が続いています。この背景には未だ終焉の兆しが見えないウクライナ戦争や秋に勃発した中東での戦争が影響していることは言うまでもありません。連日、一般市民が犠牲になったニュースを聞くたびに悲痛な思いに苛まれます。これらの地における、一刻も早い和平交渉の成立を願ってやみません。

さて、県内の血液内科診療に目を移してみましよう。2022年に公立南相馬病院に奥村廣和先生が富山県立中央病院から赴任して下さっております。これにより相双地区に念願の血液内科を標榜する病院が誕生しました。大学病院との患者さんのやりとりもスムーズに行えており、この地区の住民のみなさんには安定した血液診療を提供できるようになったと感じております。2024年度には産休明けの尾張真維先生が赴任予定です。今後益々の相双地区の血液診療の充実が期待されます。

いわき地区では、2023年度に初めて福地恒一郎先生をいわき市医療センターに常勤医(専攻医)として派遣することができました。いわき地区の地域医療支援を担う病院で経験を積み、2024年度に大学に戻ってきます。4月からは後任の指導に力を発揮してくれるものと期待しています。眞部和也先生が福地先生の後任として着任予定です。

懸案であった郡山地区ですが、2024年4月から林清人先生が太田西ノ内病院の血液内科部長として着任します。高橋皇基病院長のご協力のもと、まずは若手や女性医師が働きやすい職場環境を整備してもらいます。ゆくゆくは、以前のように活気ある血液内科を復活させたいと考えています。

県南地区の診療の要である白河厚生総合病院には、2024年度から亀井(旧姓浅野)奈緒美先生が常勤医として赴任します。高齢の多発性骨髄腫や悪性リンパ腫の患者さんが多い病院です。亀井先生にとっては地域のニーズに合った診療を学ぶいい機会だと思います。

会津地区は会津医療センターが竹田病院などと連携しながら血液診療をカバーしております。当科は現在、月曜と水曜に会津医療センターの外来診療支援を行っており、今後も継続予定です。

県北地区では北福島医療センターと南循環器科病院がバックベッドとしてフル稼働してくれています。大学病院外来に紹介される患者さんは必ず大学病院で治療方針を決定して最低1コースは当院で入院治療を行い、その後の治療を何れかの関連病院で継続していたルールを作りました。これにより大学病院の収益を損なうことなく、特定機能病院としての役割を維持できています。この場をお借りして関連病院の先生方には深くお礼申し上げます。北福島医療センターで1年間研鑽を積んだ佐藤佑紀先生が4月に戻り、後任として遠藤麻美子先生が出向します。

臨床面では、私どもの血液内科は、臨床試験を通じて標準治療の確立に貢献することを目

標に掲げてやって参りました。Phase 3 試験に留まらず phase 1 試験にも積極的に参加しています。対象は悪性疾患のみならず溶血性貧血などの良性疾患も含まれています。2016年の着任以降、毎年当科の医師が企業治験への貢献を高く評価され病院長から表彰を受けていることは私にとっても大きな誇りとなっています。これにはもちろん医師のみならず看護師、治験コーディネーター、そして何よりも患者さんのご理解と協力が欠かせません。この場を借りて深謝いたします。

研究面についてご報告です。福島復興再生特別措置法に基づき、2023年4月にF-REI(福島国際研究教育機構)が発足しました。5つの柱から構成されている研究課題の一つ、「放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用」に当科が臨床研究センターの趙松吉教授と取り組んでいる「CD82抗体を用いた放射免疫療法」も組み込んでいただきました。今年度はこちらの研究に多くのエフォートを割いて取り組んでいきたいと思っております。

最後に、2024年度がみなさまにとって幸多き一年となりますことを祈念して私の挨拶に代えさせていただきます。